

PAx: 813-

—— シンガポールに報告します。

日本の成長戦略(政府12兆円500万人雇用/10年、経済パッケージ法案では100兆3000億/5年)を実現するにインバウンド投資を対日投資として獲得するため、シンガポールとの交渉が適切と考え、先の「10兆円枠獲得のシナリオ」への具体的な進め方を準備しました。

ご検討願います。お願いです。

先にお送りした10兆円枠の内訳として、

1. うち4兆円を、日本の港湾、空港等のインフラ、ITサービスに対日投資を得る。PSA、Hutchison Whampoa等。
2. さらに4兆円を、天津工場などを先行例とする、中国、アジアの巨大な海外市場への、日本との姉妹工場を海外市場をつくり、セクターをラージサイズで現地へ導入し、内需を得る。
3. 残り2兆円を、思い切った規制緩和や起業家導入等の、「国際標準以上の特恵地域」をつくりを行い、対日投資集約の場づくりを得る。フットパルクセンター、IR事業/シンガポール例

1, 2, 3. とともに中国、アジアを対象とし、そのコーディネーター役を担う政府、政府系企業を含む華商リーダーたちからの協力を得ることかベストであると考へます。今日、彼らとの交渉により、彼らがこの対日投資実現のための協力を引き出すとの意向を得ました。

同華商リーダーたちにとり、そのメリットは、

- ① 東アジア共同体を提唱する日本から、中国、アジアへの「高質な新産業セクターの導入」を、彼らがコーディネーター役として担うことにより、一歩先進国としての更なる成長を遂げ、また、
 - ② 日本がアジア、世界の中で、唯一残された未開拓の投資先であり、このコーディネーター役に有利であること。
- 等に利します。

今後、加盟国としての立場で、成長戦略の実践に必要なインバウンド獲得を含め、

“日本が良好な交易条件を得る”ための、彼らとのシナリオづくりの機会を、

あらためてご案内いたします。(日本を相手とし得る相互の適切なリーダー間の検討場。)

8月5日, 2010 鈴木 浩二